

不正義ゆえに破綻する 鉄道労働

日刊 動労千葉

87. 2. 9

No. 2473

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

産業報国会「鉄道労連」を解体・掃せよ (初)

二月二日、鉄労・動労・当局御用組合などマル生組合からなる「改革協」が、新たに「鉄道労連」なるものをデッチあげた。「鉄道労連」は、反共主義の旗をかかげた新たな産業報国会づくりであり、その最悪の先兵が革マル松崎だ。一企業一組合の破産、国労・動労千葉の解体に失敗した松崎の危機は深まっている。「鉄道労連」の反労働者的、犯罪の実態を暴き出し、解体・一掃せよ。

松崎一派が「延命」するためだけにのみ

「鉄道労連」デッチあげ大会で初代会長・志摩（鉄労）は「改革協は完べきに国労を解体した」と挨拶した。中曽根の国鉄分割・民営化攻撃が、国鉄労働運動の絶滅一掃であり、国労の解体・丸がcaeの労使共同宣言路線への屈服、ストライキのない日本づくり、戦争国家づくりであった。分割・民営化のもとでの一企業一組合、産業報国会づくり、その最悪の先兵が革マル・松崎である。



「二月午後一時すぎから、九段会館で始まった「鉄道労連」の結成大会。会長の志摩好遠（鉄労組合長）は「きょうを起点に、もつときつなを深め、鉄道事業のための労働運動を歩み続けたい」とあいさつすると、副会長の松崎明（動労委員長）も「分裂を克服して一つの流れに結集させた。この歴史的な偉業を確認したい」と応じた。舞台裏で続く丁々発止の駆け引きを知る反対派の幹部は、「左手をしっかりと握りながら、右手で殴り合う。鉄労と動労の『暗闘』はこれからも続くだろう」と不気味な予告をする。

しかし、松崎は、国労と動労千葉の解体に失敗し、危機にのたうちまわり、いっその屈服の証として動労を解体することを自民党と鉄労に「約束」したのである。
だが、鉄労・志摩は「また分裂しても仕方ない、いまは一緒にやろう」と天から松崎の「約束」など信じていない。自民党・国鉄当局も同様、利用するだけ利用してやれ、ということだ。
革マル松崎一派が「延命」するためだけにみ労働者を犠牲にし、売り渡し、動労を解散する。この間「動労の雇用は守れた」といつつ、動労組合員の中から自殺者が続出し、退職者、脱退者が続出した。新事業体の劣悪な労働条件を「動労がかちとった」などと賛美し、首切り・賃下げは当然だと組合員を恫喝しているのだ。

労働者革命マルに 労働者の首切りをやる権利などない

松崎に、動労革命マルに自分たちの延命のために労働者の首切りをやる権利などない。動労を解散する権利もない。革マルだけでいいと動労組合員は心から願っている。高崎・水戸の労働者は敢然と決起し、昨年十一月、動労総連合を結成し、松崎打倒を宣言した。いまなお、不屈に分割・民営化反対の旗をかかげた国鉄労働者が健在であり、一企業一組合をつきとぎずしている。
労働者の犠牲のうえにデッチあげられた「鉄道労連」は、不正義ゆえに破産するに決まっている。いまこそ動労組合員、そして闘う国鉄労働者は動労総連合に結集し、「鉄道労連」を解体・一掃せよ。

2/10 発売 俺たちは「ビデオ」に生きる！ 第1報 13,500円

「俺たちは鉄路に生きる」第一報のビデオが遂に完成。協販部では一三、五〇〇円（組合あつせん価格）で販売します。注文は郵送または電話でOKです。VHSがベータか、テープの指定もお忘れなく。